

## 7月例会報告

7月例会は7月27日(土)に市役所北館市民協働センターで開催され、26人が参加した。冒頭赤木会長は前日開催した平和学習バスの活動に触れ、「平和や原爆に関する歴史をしっかりと繋いでいかなければならない」と呼びかけた。

研究発表はまず丸本富美子氏が「外国人被爆者」について発表。留学生、神父、捕虜などさまざまな立場の被爆者の背景や被爆後の調査結果を伝え、「調査過程で日本の戦争加害者としての側面を突き付けられた。学校教育でこの複雑さを学ぶ場を設けるべき」と話した。吉岡真喜夫氏は「ハイパーク覚書について」というテーマで発表。同書は米大統領と英首相の会談内容を記した文書で、米英両国で日本人を標的にした原爆投下の同意が形成されていたことを伝えている。広島・長崎で、人種や立場を問わず21万人以上の命を奪った原爆投下。改めて核兵器の使用を許さない世論を喚起していくべきだと認識させられる例会となった。

<例会参加者(敬称略)>光田清志、蔵楽知昭、蔵楽恭子、國松宏史、西本嘉住、川口裕子、梶津利江、徳永京子、角谷勉、今田幸博、進藤真由美、吉岡真喜夫、赤木達男、三島昇、船越雄治、天野浩一郎、吉原澄子、吉村鈴枝、佐々木民江、福村博士、丸本富美子、吉田泰義、長田悦子、大森美寿枝、間瀬忍、重竹訓江(以上26名)

## 6月例会発表要旨

### 安芸門徒

天野浩一郎

#### 1. はじめに

安芸門徒とは“安芸国(広島西部地域)の浄土真宗の門徒”の総称です。

浄土真宗(以下“真宗”)は親鸞が開祖で、その教えは“阿弥陀仏の衆生救済を信じ、念仏(南無阿弥陀仏)を唱えると仏になる”とされ

### 8月例会のご案内

日時 8月24日(土)13:30～  
場所 三ツ城地域センター  
発表 「郷土史研究に活用できる  
地図サイトの紹介と実習」  
広島大学大学院人間社会科学研究科  
教授 熊原康博 様

ています。

#### 2. 真宗の沼隈半島上陸

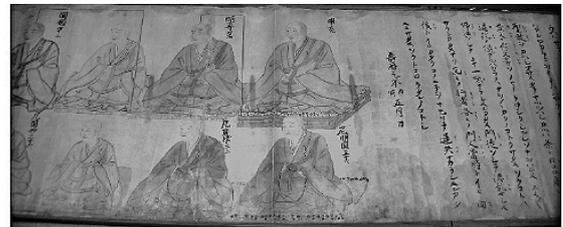
13世紀後期、真宗の布教は関東地方(専修寺・最宝寺など)や北陸地方が中心でした。当時本願寺という寺はなく、親鸞の血縁者が彼の墓と影像を安置する廟を京都で守り、天台宗青蓮院の末寺でした。

関東の専修寺系の**仏光寺**(京都)は僧侶10数名を物流の要地“軈の浦”から沼隈半島に上陸させ、真宗の布教を始めます。嘉暦元年(1326)、山南(さんな)に「**光照寺**」と「**宝田院**」が開基し、その後沼隈半島から尾道にかけて「**照林坊**」をはじめ多くの真宗寺院を開院しました。

#### 3. 備後地区での真宗布教

親鸞の教えは一般の人には難しかったのでしょうか、専修寺・仏光寺などは絵系図・先徳像・光明本尊などを使用して布教を進めました。これらは備後地区の真宗寺院にも残っています。

##### (1) 絵系図(えけいず)



宝光寺絵系図

念仏集団ごとに絵系図を作成します。入信者は僧衣を着た絵姿を、法名・年齢と共に教化者の絵姿の後ろに順に書き込んでもらい、集団の結束を固めます。上図の序題(右部)の表白者は慶円となっていますので、**仏光寺の慶円**が中心となり備後地区での真宗布教を進めたと推測されています。

多くの図書には**明光上人**が光照寺を開基し真宗を広めたとありますが、最近の研究では明光上人は沼隈半島には来ていないとの説が有力で

### 第46回県史協東広島大会 参加者募集

日時: 令和6年11月9日(土)  
場所: 東広島芸術文化ホールくらら小ホール  
申込: 例会時又は國松宏史 090-7979-6234  
〆切: 8月24日(土) 8月例会まで  
資料代 ¥1,000 弁当代 ¥1,000

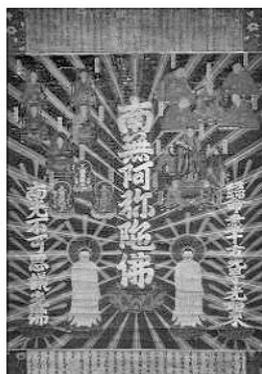
す。

## (2) 先徳像 (せんとくぞう)

法然・親鸞など優れた歴代の先徳（高僧）の絵姿が二列に上から下に描かれ、末端部には信者に身近な無名の先師を描いています。信者は先師を通し法然・親鸞たちに親近できる信念を持つようになると言われています。



先徳像



光明本尊

## (3) 光明本尊 (こうみょうほんぞん)

光明を放つ名号を中心にして如来や先師像などを一幅に収めた曼荼羅形式のものです。念仏集団ごとに所有し“念仏講”にはこれを掲げて崇拝します。講の構成員はそこに描かれている先師と同じように、如来の光被に浴すると信じるそうです。

## 4. 浄土真宗中興の祖“蓮如上人”

長禄元年（1457）蓮如上人が本願寺8世を継ぐと、親鸞聖人の教えといわれる「御文」や「正信偈」などを“真宗の基本”として布教を進めます。やがて他の寺々も実質的に本願寺の勢力下に入り、絵系図や先徳像などの使用をやめて布教を行うようになりました。

“坊主と年寄りと大人”を門徒にすれば一村の門徒化が成功できると強調し、着々と真宗を拡大させます。本願寺から「南無阿弥陀仏」の六字名号を得れば「寺」が誕生する仕組みも作りました。

## 5. 中世の安芸地区の真宗布教

(1) 光照寺の末寺（まつじ：本寺に所属する下寺）**照林坊**の寺伝によると、7世祐了が備後・安芸・出雲・石見の国々を遍歴し布教につとめ、永正4年（1507）山南から高田郡原田村に坊を移します。（10年後に同村原田村、江戸初期に三次へ移転）

本願寺と結んで教線を大きく拡大しますが、その功績に応える形で本願寺から**弥陀尊像・親鸞聖人木像・親鸞聖人画像**が下付されています。

江戸時代の「光照寺元下寺書上帳」によると、照林坊の直属の末寺は、備後80寺・安芸42寺・出雲28寺・石見43寺・長門19寺／合計212カ寺

を数えます。これらの大部分は中世の創建にかかわるもので、この時期に盛んな活動を行ったといえます。

(2) 天文19年（1550）、興正寺（仏光寺から分離）の末寺**東坊**は瀬戸内海航路を使い安芸地方で布教を進めます。芸南の有力寺院に成長する円龍寺・報泉坊・正善坊・光禅寺は東坊の末寺として開院し、仏護寺も東坊の末寺となります。

(3) 本願寺蓮如上人の“坊主と年寄りと大人”を門徒にして一村を門徒化する本願寺流の布教が安芸地区にも波及します。

真宗の“他力本願”の教えは一般の人達を魅了します。そうした人達は堂や道場で集まりをしていましたが、どこかの寺（上寺）に頼んで名号・寺号・木仏などを本願寺から購入し寺院に昇格します。

東広島市内の10数カ寺の真宗寺院は、寺伝によると本願寺の蓮如達の門主に帰依して、他の宗派から真宗に改めています。（多くが1500年代半ば）

各村落の多くは有力者の地侍が統治していたようですが、有力者が門徒になると村落の多くの人達も門徒になります。そうすると他の宗派は居心地が悪くなり、真宗への転宗を余儀なくされました。

有力者自らが僧侶となり寺を開院し封建的支配に役立てたケースも多くみられます。

毛利氏が陶氏と戦った“**厳島合戦**”では、毛利氏や小早川氏の大名が村落の有力者を家臣化し、念仏信仰の門徒衆を戦力に活用しました。

(4) 毛利元就は安芸門徒を保護し、家臣の多くも堂や寺院を開いています。また、仏護寺の堂宇や本堂も再建し真宗と良好な関係を保ちました。

織田信長と本願寺が戦った“石山合戦”では、安芸門徒は毛利軍と共に本願寺を助け、志和町の光源寺と河内町の順教寺の住職や信徒達は本願寺に駆け付け織田軍と戦っています。



上の写真（吉田泰義氏提供）は石山合戦で使

用された布製の旗です。「進者往生極楽 退者無間(むけん)地獄」と書かれ、竹原市の長善寺に残っています。

一方で本願寺は各大名とも頻繁に交際をしています。10世証如上人の日記には備後の渋川氏・小早川氏・毛利氏・尼子氏などが光照寺・照林坊を仲介に本願寺と交流しています。本願寺が諸国の大名や武士と結びついて教線を拡大する様子が伺われます。

#### 芸備における真宗寺院の開創・転入(カ寺)

| 年代(年) | 年数  | 備後国 |    | 安芸国 |     |
|-------|-----|-----|----|-----|-----|
|       |     | 開基  | 転宗 | 開基  | 転宗  |
| ～1330 |     | 25  | 4  | 1   | 0   |
| ～1495 | 160 | 22  | 4  | 5   | 15  |
| ～1531 | 36  | 10  | 6  | 32  | 38  |
| ～1554 | 23  | 7   | 1  | 23  | 38  |
| ～1569 | 15  | 11  | 1  | 16  | 14  |
| ～1582 | 13  | 19  | 3  | 23  | 25  |
| ～1919 | 337 | 59  | 11 | 62  | 125 |
| 不明    | —   | 68  |    | 62  |     |
| 合計    |     | 251 |    | 479 |     |

(資料：田中清三郎「真宗芸備教団発展の性格」)

6. 様々な方法で真宗の布教が進められ、上記の表のように安芸国内で大正8年(1919)までに**479カ寺の寺院**が誕生しました。

安芸国の開基寺院は162寺(約39%)、転宗寺院は255寺(約61%)で**転宗が多い**です。また、データが不確かですが、**60%以上の寺院**が中世に誕生したと推定されます。

東広島市の全寺院数/真宗寺院数/他宗派を右表に表します。

表の元データ(例会の“パワーポイント”に表示)によると東広島市内の転宗寺院は約68%、中世に創建された真宗寺院は全体の**約70%**になっています。中世に多くの真宗寺院が誕生しています。

#### 7. おわりに

「何故安芸地方に真宗の門徒が多いのでしょうか？」と6月例会でも質問が出ましたが、上記から考察すると次の事が推測されます。

(1) 本願寺と深く結んだ**照林坊**と東房が安芸地方にも教線を伸ばし、熱心に布教を重ねた結果多くの寺院、信者が誕生した。

(2) 毛利元就は1500年半ばから安芸国を治め真宗を保護していた。それに伴い各村落の有力者や住民達は自然と真宗の信者になった。

#### 東広島市の寺院数(2024年6月現在)

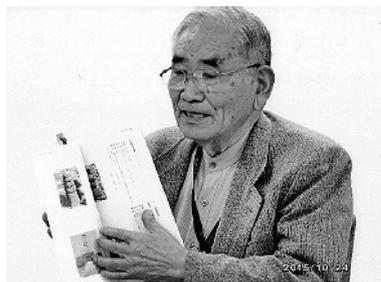
| 町名   | 全寺院 | 真宗寺院         | 他宗派            |
|------|-----|--------------|----------------|
| 西条町  | 19  | 12           | 浄土・臨済<br>真言    |
| 八本松町 | 8   | 6            | 浄土・法華          |
| 高屋町  | 12  | 10           | 浄土・真言          |
| 志和町  | 11  | 10           | 真言             |
| 豊栄町  | 10  | <u>10</u>    | —              |
| 福富町  | 4   | <u>4</u>     | —              |
| 河内町  | 11  | 9            | 浄土・真言          |
| 黒瀬町  | 8   | <u>8</u>     | —              |
| 安芸津町 | 10  | 4            | 浄土・曹洞<br>臨済・日蓮 |
| 計    | 93  | 73<br>(約78%) | —              |

<参考文献：中国新聞社編「安芸門徒」・「広島県史(中世)」・「広島県史(近世1)」他>  
以上

## 井東さんを偲ぶ

天野浩一郎

井東茂夫さんは6月19日朝、95歳の天寿を全うされました。



2015年10月例会にて  
(写真：船越雄治氏提供)

今年1月にお会いした時はお元気で、多くの本が並ぶ部屋でパソコンを開き「菖蒲前伝説の研究をもう一步進めたい」と話し、旺盛な探求心が印象的でした。

平成6年(1994)に当研究会に入会され、約30年間郷土史に関連する調査・研究に幅広く奥深く取り組まれました。

次のテーマについて、例会で発表または郷土史ニュースに寄稿されています。

菖蒲前伝説、古代山陽道、幸熊丸伝説、小谷焼、前方後円墳、藤原家の人々、盃状穴、旧木

原家住宅、教善寺開祖、狛犬、塞の神、宇都宮黙霖、宝篋印塔、石地藏、石灯籠、焼物、三津の呼び岩、吉行の石清水八幡宮、上三永の歴史散歩など現場に足を運んで調べ考えることを Motto とし、旧木原家住宅を調査した時には重要文化財で同じ江戸初期の町屋が残る奈良県五條市・大阪府堺市に何日も滞在し、町家の構造や特徴などを調査されています。

小谷焼の時も小谷焼のルーツ砥部焼の砥部市にご夫婦で何日も逗留されました。(ご夫婦揃って陶芸が趣味であった関係もあります)



FM東広島で放送  
(写真：船越雄治氏提供)

また、グループ活動の“連句(俳諧)研究会”“古文書研究会”“石造物研究会”“原爆被爆資料保存推進協議会”などの責任者又はサブとして活躍し、「東広島市の石造物」「寺家の歴史散歩」「被爆40周年賀茂大地の声 続」「国郡志御用郡辻書上帳賀茂郡」「教善寺史」などの多くの出版に携わられました。

平成18年(2006)から6年間、当研究会の副会長として会の運営に当たられます。温厚な人柄で会員の信頼が厚く、若手を抜擢し会の運営に当たらせ、今日の研究会の基礎を構築されました。

井東さんの当研究会における活動のほんの一部を紹介しました。

井東さんのご活躍に感謝するとともに、学んだ多くのことを今後も生かしていきたいと思っています。有難うございました。

## 第2回昔の道探訪会

山地 悦子

6月19日(水)第2回昔の道探訪会は、河内町下河内大和原の旧道を歩きました。東広島市出土文化財管理センターで開会后11人で県道33号線沿いの下河内へ出発しました。

平成30年7月6日の集中豪雨により、旧道の手前100mの左斜面が崩落しJR河内駅～本郷駅間の線路と県道33号線を直撃して沼田川の片側をせき止めました。この為増水した濁流が岸をえぐり道路と線路下を押し流し不通となりました。

これにより下流域の下河内地区が孤立した為地区住民が協力してこの道を通行可能にし、災害復旧に貢献されました。

中国電力椋梨川発電所の入口に車を止め、トンネルをくぐり1歩古道に足を踏み入れると苔むした石垣道の両側から覆いかぶさる樹木のトンネル心地よいひんやりとした空気、まるで別世界でした。

旧道沿いには、移動製材所、鹿道、炭窯跡、明治の中頃まであった茶店、雑木林の中の五輪塔、広島県内で唯一桐下駄職人故澤田氏が桐の木を育てていた場所、N家の墓所、東家等々、歴史生活の足跡を学ぶことが出来ました。道の両側には、たくさんの石垣が積まれた跡、田んぼや畑の跡が忍ばれ、昔はたくさんの人々が共に賑やかに暮らしていたであろうと想像するにつけても、今は2軒の民家があるのみで感慨深さもひとしおでした。

河内町郷土史研究会会員の下河内在住、坪見博文様が途中から同行してくださり、昔の旧道を案内してくださいました。市営墓地の隣の共同墓地の一角にある河内町小田城最後の城主小田甚兵衛の墓を案内してくださり、別名「いぼ神様」と呼ばれ、実際にいぼがとれた等、いぼ伝説を聞かせてくださいました。



小田城最後の城主 小田甚兵衛の墓

中国電力椋梨川発電所まで引き返し大和原神社に向かいました。大和原神社は河内駅から東へ2kmの山陽本線の北側にあります。石鳥居は昭和15年建立で線路の南側に有り踏切のない線路を渡らなければ参拝出来ません。

旧称春日神社、祭神は天津児屋根命「芸藩通志」には春日神社として大内氏の浪士藤野源左衛門盛光が下河内に住しその孫三右衛門盛光が永禄年間(1558~70)に勧請したとの伝えを記す。延宝9年(1681)9月中務前右衛門三代再建す。とあります。

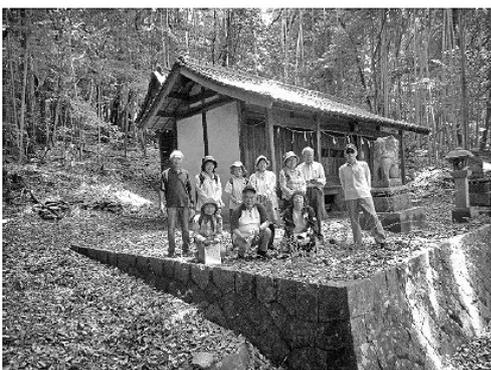
十月の祭りでは境内の大木にわらの竜を登らせているが、言い伝えでは川向こうの一夜原から洪水の時大蛇に乗って神功皇后が渡ってこられたとの伝説がある。今は竜の胴体は作れるが頭の部分を作れる人がいなくなり、それなりですと坪見さんが笑いながら話してくださいました。



大和原神社鳥居



大和原神社注連柱



大和原神社拝殿

河内で一次解散、8名は小田の寄りんさい屋で昼食、小田地域センターで真光寺の宝篋印塔、小田城や地域のジオラマを見学しました。

更に4人は小田城跡の展望台へ裏山から登って小田川の両側に広がる小田の歴史を感じながら古道探訪を終えました。

新しい発見、知る喜び、人との出会い、古い道を歩くことによって、山城探訪会とは異なる楽しみ方を学ばせていただき感謝の一日でした。皆様ありがとうございました。

### 第3回昔の道探訪会

吉田 泰義

7月17日(水)高屋町の白市交流会館で座談会を参加者6名で開催しました。

話題1・・・東広島市の人口増減

|     | 2005年   | 2024年   | 増減数    |
|-----|---------|---------|--------|
| 西条  | 59,003  | 84,352  | 25,349 |
| 八本松 | 26,130  | 29,719  | 3,589  |
| 高屋  | 30,961  | 29,648  | ▲1,313 |
| 黒瀬  | 24,479  | 21,691  | ▲2,788 |
| 安芸津 | 12,142  | 8,449   | ▲3,693 |
| 志和  | 7,974   | 6,078   | ▲1,896 |
| 河内  | 6,802   | 5,213   | ▲1,589 |
| 豊栄  | 4,402   | 2,853   | ▲1,549 |
| 福富  | 2,960   | 2,145   | ▲815   |
| 外国人 | 3,601   | 8,875   | 5,274  |
| 合計  | 178,454 | 190,155 | 11,701 |

20年前と、市全体で18万人から19万人に増加していますが、西条町と外国人が大幅に増加し、八本松町は微増、高屋町は微減、その他6町は大幅に減少しています。

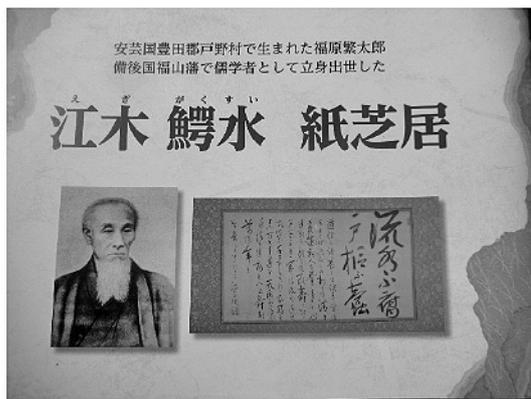
注目した外国人は現在、西条5,304人、八本松1,573人、高屋680人、黒瀬603人、志和281人、安芸津273人、河内67人、豊栄60人、福富28人、合計8,875人です。

話題2・・・第2回探訪会、下河内の古道と大和原神社の思い出振り返りました。

話題3・・・7/22岡山臨地研修の見どころなど蔵楽さんよりお話を聞きました。

話題4・・・東広島市9町の地図アクションプログラムを参考に、今後の探訪会希望地をとりまとめました。・安芸津町祇園祭素鷲神社・河内町入野の竹林寺・河内町中河内の深山峡・豊栄町清武や鍛冶屋の古道・竹原市田万里・大和町椋梨・沼田川の川浴い昔の道・近隣市外では福山市や三原市など、希望地がいろいろ出ました。

話題5・・・「江木鱈水紙芝居」



三原市西町浄土宗大善寺の竹村家墓地で、鯉水の母・繁の墓に直面しました。

沼隈郡山手村の藤井家に生まれ、豊田郡戸野村の福原家、豊田郡入野村の大多和家、三原の竹村家に縁あり、天保14年（1843）9月16日病卒、戒名は澄景院貞省大姉、江木繁太郎晋弋34歳で福山藩儒官10人扶持の時でした。

話題6・・・今後の探訪会は原則として、奇数月の第2水曜日に実施します。例外として別の曜日で休日などに実施する事もあります。

今後の予定は、第4回を9月21日(土)、第5回を11月13日(水)に計画しています。

### 9月臨地例会参加者募集

(三原市久井町)

日 時 令和6年9月28日(土)  
午前 8:40分集合  
場 所 三原市久井町・久井の牛馬市跡  
(久井歴史民俗史料館周辺)  
集合場所 西条・鏡山第二駐車場(市役所横  
バス停)(各自昼食・飲み物は用意)  
参加費用 1,200円(交通費含む)  
東広島市社会福祉協議会マイクロバス使用  
申 込 大森さんまで 090-9462-9861  
【コース】  
鏡山第二駐車場→市役所横→西条 I.C.→高坂  
パーキング(トイレ休憩)→久井 I.C.→三原  
市久井歴史民俗資料館(第1展示室～第4展  
示室を見学)→昼食(資料館)→久井稲生神社  
→久井岩海(国指定天然記念物)→久井 I.C.  
→小谷サービスエリア(トイレ休憩)→西条  
I.C.→市役所横→鏡山第二駐車場(解散)  
午後4時30分ごろ帰着予定

久井牛馬市の起源は古く天暦5年(951)といわれ、千年の歴史を有する牛馬市でした。江戸時代には広島藩の公認となり、伯耆(鳥取)の「大山の牛馬市」、豊後(大分)の「浜の牛馬市」と共に日本三大牛馬市と称され、最盛期には1万7千頭もの牛馬が集まったと言われます。久井は牛馬を繋ぎ留める「杭」が地面へ無数に打たれていたことから「杭の庄」と呼ばれ、後に現在の「久井」の漢字になったと伝えられています。

この地は山陽・山陰の交通の要所であり、牛馬市の状況によって久井稲生神社を中心に門前町として昭和の半ばごろまで賑わっていました。

当時の様子が資料、写真等で資料館に展示されており、往時の繁栄ぶりに思いをはせていただければと思います。

### 《新規会員随時募集中》

活動の様子がお知りになりたい方は  
QRコードを読み取ってのぞいて見てね。



HP



Instagram



Facebook

### グループ研究会ご案内

#### 古文書研究会

8月はお休みします。

#### 石造物研究会

8月はお休みします。

#### 第185回 四日市町並研究会

と き 8月12日(月) 13:30～  
と ころ 西条本町歴史広場 小島屋土蔵  
内 容 県史協大会酒蔵コース案内準備

#### 昔の道探訪会(旧山城探訪会)

8月はお休みします。

#### 原爆資料保存研究会

8月はお休みします。

#### 8月の図書室開放

と き 8月16日(金) 13:00～15:00  
と ころ 高屋教育集会所

### ひがしひろしま郷土史研究会ニュース 第600号

令和6年(2024)8月5日発行  
編集・発行 東広島郷土史研究会

会 長 赤木達男 TEL(082)423-7235  
E-mail:akatatu@d4.dion.ne.jp

事務局長 國松宏史 TEL090-7979-6234  
E-mail:kunimatsu402@hi3.enjoy.ne.jp

会報編集 間瀬 忍 TEL080-5756-2303  
E-mail:mase shinobu@yahoo.co.jp